

K

「楓の風」らしい看護の取り組みを発信



在宅療養支援

楓の風

KAEDE TIMES 2026

在宅生活を支援するー私たちの試行錯誤



ー在宅を支える全てのみなさまへー

私たち、「楓の風」スタッフが、どのような想いで在宅支援をしているのかを、一人でも多くの方に知っていただきたい！と思い、

「楓の風」らしい取り組みをご紹介します、ニュースレターをはじめました！



Case 14

家族が長年介護を担ってきた場合では、**支援を増やすことが必ずしも「負担軽減」になるとは限りません。** 今回ご紹介するのは、**90代のご両親が50年以上にわたり**、障害のある息子さんを支えてきた事例です。ご家族が大切にしてきた介護の形を尊重しながら、その先の暮らしを一緒に考える支援を続けました。

ケース

90代のご両親が、長年にわたり障害のある息子さんを支えてきたご家族

50代男性（Aさん）。ある**遺伝性疾患**を患っておられ、身体障害者1級、障害支援区分6。**ADLは全介助**で、胃ろう管理や喀痰吸引などの医療的ケアが必要でした。**幼少期からご両親が介護の中心を担い、外部サービスの利用には慎重**でした。ご両親も90代となる中、これまでの生活を大切にしながら、**将来を見据えた支援体制**をどうつくるかが課題となりました。



実施した訪問看護・多職種支援

訪問看護では医療的ケアを支援しながら、ご家族との関係づくりを重ねました。当初、お母様は**訪問介護の利用にも慎重**で、「**（Aさん）がお泊りに行ったら静かになっちゃう。（Aさん）のために生きているようなもんだもん**」と話されていました。

そこで単に「介護負担を減らす」ことを勧めるのではなく、**「ご両親に何かあったとき、A氏が安心して生活をするため」という視点で対話**を継続。

医師や障害福祉関係者とも連携し、長時間の訪問介護、ショートステイ、施設見学や将来の入所申込みへと**少しずつ支援が広がりました。**



その後の経過と気づき

この事例から、**介護負担の軽減とは、家族が担ってきた介護を単にサービスへ置き換えることではない**と学びました。長年の介護には、ご家族の役割や**生きがい**、**価値観が深く結びついています。**その思いを理解し、「ご本人のこれから」を主語に一緒に考えることで、受け入れられる支援があります。

医療・介護・障害福祉がつながり、**家族全体のライフステージを見据えて支えることの大切さ**を改めて教えていただいた事例です。